



アクセシビリティ推進委員会

年報

2019

障がい学生支援の実施状況について

札幌学院大学

巻頭言

アクセシビリティ推進委員会の活動を報告する2019年度の年報を発行します。

今年度も、アクセシビリティ・学生スタッフとともに、情報保障・ポイントテイク・通学移動支援などの合理的配慮の実施に取り組んできました。アクセシビリティ推進委員会の活動は、なんといっても学生たちの存在抜きには成り立ちません。今年度は106名の学生たちがアクセシビリティ・学生スタッフとして登録し、本学のアクセシビリティの推進と向上のために日々頑張ってくれました。課題はいろいろありながらも、より良い支援をめざして自ら技術の習得と研鑽に励み、支援のノウハウを講習会等で相互に伝達し、時には意見をぶつけ合いながら支援活動に取り組む姿勢にはいつも頭が下がる思いです。ほんの一端ではありますが、この年報をとおしてそうした活動を知っていただきたいと思います。

一方でアクセシビリティの推進は、学生たちの活動だけですめられるわけではありません。私たちすべての教職員が関心をもち、一人ひとりのほんの少しの心配りや工夫によってはじめて達成することができます。確かに学生たちの活動は見えやすく、彼らの活動によってこそアクセシブルな環境を可能にしていると言っても過言ではありませんが、しかしそれと同じくらい大切なことは教職員一人ひとりによるほんの少しの心配りと工夫です。例えば、資料を事前に配布したり映像に字幕をつけたり、できるだけゆっくり話すよう心がけたり、あるいは重要なことをプリントで配布したり板書したり、また発表の仕方を少し変えて話しやすく工夫したりレポートに代えたり等々、実はすでにほとんどの授業においてほとんどの教員が行っているはずのことです。このことは見えにくく少し地味にも感じますが、でもアクセシビリティの推進と向上にはとても重要な要素であることをあらためて確認しておきたいと思います。

このようなほんの少しの心配りや工夫をもう一歩進めて、今年度は先生方に授業(教育)の目的や内容そして評価の仕方について今一度見直してほしいことをお願いしました。それは「シラバス作成要領」において『合理的配慮が必要な学生への対応について』と題した文書で、授業で習得を求めている能力や受講に必要なとされる要件に不当な差別的取扱いや社会的障壁にあたるものがないかの確認をお願いしています。アクセシビリティの障壁になる例も示していますのでぜひあらためて確認していただき、一層みんなが協働して誰もが共に・等しく・快適に学べる環境づくりをすすめていきたいと願っています。

2020年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川 敏道

目次

- I アクセシビリティ推進委員会の概要……………p1
 - 1. アクセシビリティ推進委員
 - 2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ
 - 2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ 支援別延べ人数
 - 3. 参考資料 障がい学生数
- II 合理的配慮の実施状況……………p2
 - 1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・UDトーク・ロジャー）
 - (1)通常の授業における情報保障
 - (2)通常の授業以外における情報保障
 - 2. ポイントテイク
 - 3. 通学・移動支援
 - 4. 授業配慮の依頼状況
- III アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ……………p3
 - 1. 手話勉強会・手話サロン
 - 2. 雑談会
 - 3. 就職支援
 - 4. 社会移行支援
 - 5. 静かな学習空間の利用状況
 - 6. 学生面談の実施状況
 - 7. 支援者募集と説明会の実施状況
 - 8. 冬道通学介助支援
- IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況……………p7
 - 1. 第15回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
 - 2. 講師派遣・受け入れ
 - 3. 研究発表・研究会等参加
- V アクセシビリティ推進委員の活動状況……………p8
 - 1. 関係機関の委員委嘱
 - (1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
 - (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
 - 2. 北海道障害学生修学支援ネットワーク
 - 3. 発達障がいのある学生への教育支援事業
 - 4. 研修会・会議等の参加
 - 5. 理解・啓発及び広報活動

I アクセシビリティ推進委員会の概要

1. アクセシビリティ推進委員

委員長：松川 敏道（人文学部人間科学科准教授） 委員：藤野 友紀（人文学部人間科学科准教授）・田中 敦士（人文学部人間科学科教授）・斉藤 美香（心理学部臨床心理学科准教授）・皆川 雅章（法学部法律学科教授）・佐野 友泰（副学長/心理学部臨床心理学科教授）・卜部 洋子（学生相談室カウンセラー）・廣嶋 進（教育支援課長）・中川 道雄（学生支援課長）

2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ

(人)

	経営学科	会計ファイ ナンス学科	こども発達 学科	人間科学 科	英語英米 文学科	臨床心理 学科	法律学科	経済学科	計
1年生	1	0	4	7	1	15	3	3	34
2年生	1	0	2	3	4	11	1	1	23
3年生	1	0	7	2	3	5	2	2	22
4年生	0	0	5	8	3	7	3	1	27
計	3	0	18	20	11	38	9	7	106

2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

(人)

	パソコンテイク	ノートテイク	ポイントテイク	通学介助	計
1年生	21	7	10	16	54
2年生	13	9	6	7	35
3年生	10	7	15	11	43
4年生	17	6	18	16	57
計	61	29	49	50	189

3. 参考資料 障がい学生数

(人)

	聴覚	視覚	肢体不自由	病弱・虚弱	発達障害	精神障害	重複	その他	
診断書のある学生	5	0	4	4	14	8	1	4	40
診断書のない学生	0	0	0	0	14	8	0	9	31
計	5	0	4	4	28	16	1	13	71

※数値は診断書の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数(科目等履修生含む)。2020年3月31日現在

Ⅱ 合理的配慮の実施状況

1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・UDトーク・ロジャー）

（1）通常の授業における情報保障

前 期		1年生	2年生	3年生	4年生	計
情報保障を利用した学生数（人）		0	2	2	3	7
情報保障を行った科目数※ ¹		0	30	18	9	57
※ ²	ノートテイク	0	3	0	0	3
	パソコンテイク	0	12	3	5	20
	UDトーク	0	1	4	0	5
	ロジャー	0	14	3	0	17

後 期		1年生	2年生	3年生	4年生	計
情報保障を利用した学生数（人）		0	2	2	3	7
情報保障を行った科目数※ ¹		0	25	9	7	41
※ ²	ノートテイク	0	7	0	0	7
	パソコンテイク	0	19	9	7	35
	UDトーク	0	1	2	0	3
	ロジャー	0	8	0	0	8

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2020年3月31日

※2. ノートテイク：手書きによる文字通訳

パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳

UDトーク：音声認識による文字通訳

ロジャー：デジタル補助援助システムによる聞き取りの補助

※情報保障の支援では、1時間1,000円の謝金が学生スタッフに支払われます。

（2）通常の授業以外における情報保障

- ・入学式、学位記授与式（パソコンテイク）
- ・各種ガイダンス（奨学金・キャリアガイダンス・社会福祉士・専門ゼミ・インターンシップ 他）（パソコンテイク）
- ・学外見学「社会福祉施設見学（6月・札幌）」（UDトーク ※修正付）
- ・オープンキャンパス（パソコンテイク）
- ・人文学部卒論中間報告会（7月・本学）（手話通訳 ※外部依頼）
- ・人文学部卒論報告会（2月・本学）（手話通訳 ※外部依頼）



入学式におけるパソコンテイク

2. ポイントテイク（筆記代行）

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
ポイントテイクを利用した学生数（人）	0	0	1	1	2
ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【前期】	0	0	8	4	12
ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【後期】	0	0	8	4	12

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2020年3月31日現在

※ポイントテイクでは、1時間880円の謝金が学生スタッフに支払われます。

3. 通学・移動支援

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
通学介助を利用した学生数（人）	1	1	1	1	4
週あたりの登下校回数【前期】	0	0	0	2	2
週あたりの登下校回数【後期】	5	5	5	2	17

※2020年3月31日現在

※通学・移動支援では、1回300円の謝金が学生スタッフに支払われます。

4. 授業配慮の依頼状況

【前期22名】 聴覚障がい学生5名、肢体不自由学生5名、発達障がい・精神障がい学生12名

【後期17名】 聴覚障がい学生3名、肢体不自由学生3名、発達障がい・精神障がい学生11名

Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み

1. 手話勉強会・手話サロン

●手話勉強会

前期：2019年4月19日から7月26日（13回）後期：10月4日から12月20日（12回）全25回。毎週金曜日19：00～20：30まで、ENTRANCEにて開催。

担当：学外講師は2名（佐藤裕介氏、小川達巳氏）、参加学生数（延べ）30名。

●手話サロン

前期：2019年4月15日から7月22日（12回）、後期：10月1日から12月23日（12回）全24回。毎週月曜日の昼休み、SPACE2にて開催。

担当：藤野 友紀（人文学部人間科学科准教授）



手話勉強会の様子



6. 学生面談の実施状況

2019年度入学生 入学前面談 12名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を実施しています。

7. 支援者募集と説明会の実施状況

1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ

2019年3月27日（新2年生）、3月30日（新3年生）アクセシビリティ推進委員、
2019年4月3日（新入生） アクセシビリティ推進委員、アクセシビリティ・学生スタッフ

2) 障がい学生支援者説明会

[前期] 2019年4月12日、16日、18日の昼休み時間にB201教室で開催し、
3日間で約80名以上の参加

3) パソコンテイク講習会（合同講習会を含め全37回／計39名が受講）

[前期] 2019年5月9日～6月21日（毎週火3・4・水3・木3・4・金4に実施）

4) パソコンテイク練習会（全26回／計22名が受講）

[前期] 2019年6月3日～6月27日（毎週月2・4・火2・水3・4・木1・2
に実施）、7月4日～7月11日（毎週木3に実施）

5) ノートテイク講習会（前期は合同講習会を含め全22回／計19名が受講、 後期は全6回／3名が受講）

[前期] 2019年5月9日～7月1日（毎週月3・木3・4に実施）

[後期] 2019年11月12日～12月17日（毎週火3に実施）

6) ノートテイク練習会（全2回／計3名が受講）

[前期] 2019年9月30日（月3・4に実施）

7) ポイントテイク講習会（前期は全9回／計18名が受講、後期は全1回／2名が受講）

[前期] 2019年5月7日～6月7日（毎週火4・金4・5に実施）

[後期] 2019年10月23日（水3に実施）

8) ポイントテイク練習会（全4回／教養科目、専門科目、英語、グループワークでの 練習を実施／3～4名が受講）

[後期] 2019年11月27日～12月18日

9) UDトーク講習会（全3回／計5名が受講）

[後期] 2019年11月13日～15日（水3・木4・金4に実施）

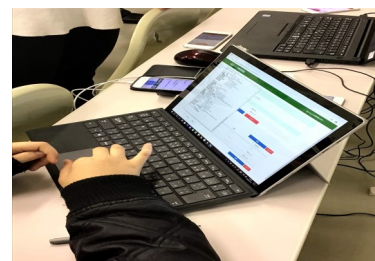
10) 通学介助講習会

[前期] 2019年4月22日、24日の昼休み時間にB201教室で開催、2日間で20名の学生が受講

[後期] 2019年11月13日(水3)、14日(木4)にB201教室で開催、2日間で19名の学生が受講



パソコン・ノートテイク合同講習会の様子



UDトーク講習会の様子

8. 冬道通学介助支援

今年度の冬道通学介助は、介助を要する3名の学生に対し、新1年生を含めた合計20名の学生が支援を行いました。（期間：2019年11月18日から2020年1月31日／支援回数合計124回）移動には、昨年度寄贈された車いすキャストースキーに加え、けん引式車いす補助装置（JINRIKI）を装着して通学介助を行ないました。この冬は例年に比べ降雪が少なかったものの、根雪になってからはこれらの補助機器なしでは発生する車いすの前輪が埋まってしまう等のトラブルも回避され、抜群の効果が発揮されました。しかしながら、車いすに装着する機器の脱着や上り坂、氷の溝による段差等の移動にはかなりの人力も必要となり、次年度以降も腕力が強い学生の支援協力が必要です。



冬道通学介助講習会の様子



IVアクセシビリティ・学生スタッフの活動状況

1.第15回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

日時：2019年11月23～24日

会場：大阪大学吹田キャンパス

主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）／国立大学法人 筑波技術大学

【聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2019で奨励賞を受賞】

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)・筑波技術大学が主催する「第15回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（会場：大阪大学）」に本学のアクセシビリティ・学生スタッフの10名の学生が参加し、「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」で奨励賞を受賞しました。このシンポジウムは、全国の大学における聴覚障害学生への支援実践に関する情報を交換するとともに、PEPNet-Japanの活動成果をより多くの大学・機関に対して発信することで、今後の高等教育機関における聴覚障害学生支援体制発展に寄与することを目的として開催されております。

<参加学生>

杉澤榛高（人文学部臨床心理学科4年）・武田敏輝（人文学部人間科学科4年）・大柴仙子（人文学部人間科学科4年）・高松良輔（法学部法律学科4年）・僧都美空（人文学部臨床心理学科3年）・森部光（人文学部人間科学科2年）・村本 紫（心理学部臨床心理学科2年）・長岡万由（経済学部経済学科1年）・阿部遥花（心理学部臨床心理学科1年）・須賀川真由（心理学部臨床心理学科1年）

今年は11月23日～24日の日程で大阪大学で開催され、2日目に開催された「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」には、16大学が参加し、本学の10名の学生もこれまでの取り組みを紹介するポスターを出品しました。今年は発表タイトルを「音声認識を利用した支援体制の構築」に設定し、これまで本学が取り組んできた音声認識を利用した支援の歴史を紙芝居と手話を使いながら発表しました。会場では、支援の詳細を説明した小冊子も用意して発表を行いました。たくさんの参加者の方々に本学のブースに来ていただき、小冊子は部数が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。



コンテストに応募したポスター



2. 講師派遣・受け入れ

- 2019年11月28日／UDトークを使用したテイク講習会（北海道医療大学 教員1名）

講師：杉澤 榛高（人文学部臨床心理学科4年）、平賀 一馬（心理学部臨床心理学科1年）、須賀川 真由（心理学部臨床心理学科1年）



3. 研究発表・研究会等参加

【研究発表】

- 2019年11月24日／第15回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム・聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2019（大阪・大阪大学吹田キャンパス）

参加学生（2名）：森部 光(人間科学科2年)、村本 紫(心理学科2年)

【研修会・会議出席】

- 2019年8月24～27日／第39回全国ろう学生の集い（滋賀）

参加学生（4名）：大橋 梨予(英語英米文学科4年)、高野 春香（人間科学科4年）、僧都 美空（臨床心理学科3年）、森部 光(人間科学科2年)



【報告会の模様：2019年9月25日】

V アクセシビリティ推進委員の活動状況



1. 関係機関の委員委嘱

- (1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生修学支援ネットワーク事業運営委員

松川敏道（任期：2019年4月1日～2020年3月31日）

- (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2019年4月1日～2020年3月31日）



2. 北海道障害学生修学支援ネットワーク

- 2019年9月2日／第4回北海道障害学生修学支援ネットワーク情報交換会（江別：北翔大学）
／アクセシビリティ推進委員9名参加

- 2020年2月21日／第5回北海道障害学生修学支援ネットワーク情報交換会（札幌：北海道大学）
／アクセシビリティ推進委員10名参加



3. 発達障がいのある学生への教育支援事業（学長裁量経費事業）

学長裁量プロジェクトに応募、採択され、①「発達障がいのある学生に対する修学・就職支援で道内外の先進的な大学とその連携機関、事業所等を訪問調査し、ノウハウを蓄積する」とともに、②「今後の支援のあり方に向けた議論の機会を提供する」ことを目的として事業を行いました。アクセシビリティ推進委員会が事業主体となり、学内の専門家3名の先生方にもコアメンバーとして入って頂いたほか、学内外10名の方々にプロジェクト協力者として意見交換や情報提供で関与して頂きました。

訪問調査は5大学（東京大学、筑波大学、富山大学、関西学院大学、明星大学）、4支援機関（Kaizen新宿、Kaizen秋葉原、ガクプロ、翔和学園）でした。発達障がいのある学生に対する修学・就職支援のノウハウを蓄積するという第1の目的はおおむね達成できましたが、新型コロナウイルスの影響で訪問を断念せざるを得なかった大学もありました。

全国訪問調査の成果報告会を含めたFD/SD研究会を3月9日（月）に開催し、道内の支援機関の講師を招いて多くの教職員と今後の本学における支援のあり方に向けた議論の機会を提供する予定でした。しかし、新型コロナウイルスに伴う影響で延期（今年度は中止）せざるを得ず、第2の目的については全学的には十分達成できませんでしたが、3回にわたるWGの開催などでコアメンバー間の意見交換は十分にできました。FD/SD研究会については改めて来年度に企画起案する予定です。

【プロジェクトチーム・コアメンバー】 田中 敦士（プロジェクトリーダー、アクセシビリティ推進委員）、松川 敏道（アクセシビリティ推進委員長）、藤野 友紀（アクセシビリティ推進委員）、斉藤 美香（アクセシビリティ推進委員）、ト部 洋子（アクセシビリティ推進委員）、山本 彩（臨床心理学研究科長）、栃真賀 透（人文学部人間科学科教授）、河西 邦人（学長）



4. 研修会・会議等の参加

【来訪】

- 2019年5月21日／北京農学院 教職員 3名
- 2019年5月22日／日本医療大学 教員1名
- 2019年7月4日／筑波技術大学 教員1名
- 2019年10月11日／東北大学 教員2名
- 2019年10月29日／松山大学 職員1名
- 2019年11月28日／北海道医療大学 教員1名

【研修会・会議出席】

- 2019年6月28～30日／全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会（東京）
／松川 敏道（教員）・斉藤 美香（教員）・水上 真一（職員）

- 2019年5月25日／PEPNet-Japan第10回正会員大学・情報交換会・第38回運営委員会（東京）
／藤野 友紀（教員）
- 2019年9月10日／PEPNet-Japan第11回正会員大学・情報交換会・第39回運営委員会（東京）
／藤野 友紀（教員）
- 2019年9月17～18日／障害学生支援実務者研修会：前期（東京）／青木 美保（職員）
- 2019年10月1日／障害学生支援理解・啓発セミナー（東京）／尾崎 貴司（職員）
- 2019年11月23～24日／第15回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（大阪・大阪大学）
／藤野 友紀（教員）・皆川 雅章（教員）・尾崎 貴司（職員）
- 2019年12月9～10日／障害学生支援実務者研修会：後期（東京）／青木 美保（職員）
- 2020年1月21日／令和元年度障害学生支援大学長会議（筑波）／佐野 友泰（教員）
- 2020年2月27日／PEPNet-Japan第12回正会員大学・情報交換会・第40回運営委員会（東京）
／藤野 友紀（教員）

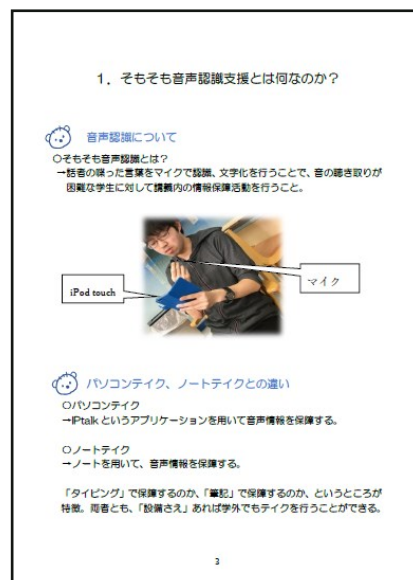
【訪問】

学長裁量経費事業「発達障がいのある学生への修学・就職支援に関する訪問調査」

- 2019年10月28～29日／東京大学先端科学技術研究センター・（株）kaien・ガクプロ新宿（東京）
／田中 敦士（教員）・柘真賀 透（教員）／藤野 友紀（教員）
- 2019年12月16～17日／筑波大学・（株）Kaien秋葉原／田中敦士（教員）・柘真賀透（教員）
- 2020年2月8～10日／翔和学園（小・中・高・大学部）（東京）／田中 敦士（教員）
- 2020年2月17日／富山大学（富山）／ト部 洋子（職員）
- 2020年2月27～28日／関西学院大学（大阪）・明星大学発達支援研究センター（東京）
／松川 敏道（教員）
- 2020年2月28日／明星大学発達支援研究センター（東京）／斉藤 美香（教員）

5.理解・啓発および広報活動

『障がい学生支援パンフレット第4号 音声認識支援（UDトーク）ガイド』（2020年3月発行）





札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2020年3月31日

住所：〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp

電話番号：011-375-8567（直通）

ファックス番号：011-386-8190

（担当事務局：学生支援課学生支援係）